

舞鶴市市史編さん委員会近代部会（第1回） 議事要録

- 日 時：令和6年11月23日（土）10時～12時
- 場 所：Web会議
- 出席者：東部部会長、児玉副部会長、池田委員、飯塚委員、坂根委員、小野寺委員
- 舞鶴市：生涯学習部文化振興課（三方次長、松本担当課長、田中係長、石原、吉岡、廣瀬）

《次第》

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 部会委員紹介
- 4 協議事項
 - (1)部会長及び副部会長（編集責任者）の選出について
 - (2)市史刊行に向けたロードマップについて
 - (3)章立て等刊行物の構成について
 - (4)執筆者等の推薦について
 - (5)その他
 - ①執筆要項について
 - ②報酬等取扱基準について
 - ③その他
- 5 今後の予定等
- 6 閉会

《概要》

【協議事項】

- (1)部会長及び副部会長（編集責任者）の選出について
 - ◎児玉委員から、部会長に東委員を推薦する旨の発言があり、他に意見がなく全員の賛成により、部会長に東委員が選出された。その後、東部会長からの指名により、副部会長に児玉委員が選出された。
- (2)市史刊行に向けたロードマップについて
 - 〔事務局より、資料2・市史刊行に向けたロードマップについて説明。〕
 - ・令和7年度が空白になっているが、例えば東京での調査を行う場合はどうか。
 - 事務局／令和7年度は部会の活動としては空白にしているが、各先生方の活動は必要ならお願いしたい。その際報告いただき、それに対する報償も支払いさせていただく。
 - ・自分の研究費で、防衛省等へ行ったりするかもしれない。
 - ・新聞記事の検索をしてほしいが、これには多くの作業時間を要するが、今後の見通しを聞きたい。
 - 事務局／新聞の関係について、来年度から本格的にかかりたい。他に委員さんから要望の事項があれば動いていきたい。
 - ・京都新聞社の検索機能を利用する場合、多くの費用と時間がかかる。早くから

着手しないと、予定の刊行年に間に合わない可能性がでてくる。既刊市史の時にも収集しているものがあると思うが、新聞記事は基本的な資料なので検討いただきたい。

- ・既刊市史に引用されている資料については、調査の中で全てデータ化しているが、市において新聞記事の収集状況はどうか。
 - 事務局／市民の方から提供いただいている京都新聞のコピーがある。明治10年から昭和50年ぐらいまでの舞鶴関係の記事で、ファイル6分冊、例えば明治10年から45年までで220件となっている。全てではないと思われるが、今後利用していただけるようにしたい。
- ・既刊市史の本文と、市民の方から提供されている新聞記事のデータを共有しながら、京都新聞のデータベースをもう一度全部あたっていくという作業が必要だと思う。費用もかかり、誰が検索するかなども含め検討する必要がある。
- ・多分既刊市史などに掲載されているもの、あるいは今まで収集しているものは軍港関係のものが多いと思われる。京都新聞のデータベースで、舞鶴関係の記事を網羅的に収集してほしい。また、この作業を事務局にまかせてもいいのか。また、舞鶴で独自に出していた舞鶴新報の原紙は、以前は市が持っていたが現時点ではどうなっているのか。地元紙だと情報量が圧倒的に違うので、確認しておきたい。
 - 事務局／京都新聞のデータベースに関しては、網羅的な形で収集を考えており、各委員のご意見をいただきながら、時間はかかると思うが基本的には事務局の方で進めていきたい。舞鶴新報については、今把握していないので確認させていただきたい。
- ・舞鶴新報については、廃棄されたという話が伝わってきているので、確認してほしい。
- ・調査をして、結果を共有してほしい。
- ・刊行計画では、1年に2冊ずつ刊行することになっているが、通常は1年に1冊であり、事務局の負担も大きく少しタイトな刊行計画であると感じた。
 - 事務局／他の部会でも同様の指摘はあり、文化遺産部会では刊行時期の見直しの意見が出ている。この刊行計画は、令和14年までの10ヶ年計画で、刊行がずれ込む可能性もあると思う。節目、節目で進捗の状況により計画の見直しも考えていきたい。
- ・年2冊の刊行は大変だと思うので、各部会の編さん状況を見ながらまた検討してほしい。

(3)章立て等刊行物の構成について

〔事務局より、資料3・新修・舞鶴市史執筆要項、資料5・舞鶴市史通史編（中）及び（下）目次、資料6・京丹後市史抜粋について説明。〕

- ・資料編については、見開き2ページで1テーマ、頁数から100テーマぐらいの限定された資料編になり、トピック的なものを出していくということで、写真や図版などを使い非常にビジュアルで親しみやすい資料編を目指している。研究者等に向けては、資料編の基礎となっている資料目録などをネット等で公開していく。また、旧軍港の分野編は叙述になると思うが、資料編と分野編のすみ分けも念頭において資料編の構成を検討いただきたい。
- ・京丹後市史の紹介があったが、見開きで下3分の1ぐらいが文章で、その上に写

真や表が入るイメージか。

- 部会によって変えてもいいと思っているが、基本は半分が文章で、文章が多い場合もあるというふうに理解している。
- 写真が見開きで2点となると計200点となり、収集や著作権の処理も結構大変だと思う。写真等資料の下に解説を入れるというイメージと考えてよいか。
- 近世の場合、資料の翻刻や現代語訳、解説のほか、古文書などの写真を考えている。近代は、写真がない時代もあり、近代独自でまた検討すればよいと思う。
- 構成としては、政治行政、産業経済、教育文化、社会関係の4つぐらいに分けて、担当者を決めて編さんを進めていく方法が普通だと思う。100トピックとすると、単純に4項目で割ると1項目25ぐらいで、例えば第一次大戦の前後で分けると13か12ぐらいずつとなる。そういうイメージでトピックを考えていくということによいか。
- 分野ごとに担当を選ぶ場合や皆でテーマを出していく場合などいろいろな方法があるが、坂根委員の提案の方向で私はいいと思う。
- 産業経済関係は私と小野寺さん、例えば政治行政、教育文化、社会ですが、おられる委員の皆さんで、それぞれ責任を持っていただくのがスムーズな形になると思うがどうか。
- 皆さんそれでよければ、決めて進めていくことで構わないと思う。
- 政治行政関係の専門の先生が多いので、自分が例えば教育や社会関係でもいいということであれば、その方を中心に委員の補充もして編さんを進めていければと思う。
- 一巻200ページ、上に写真が入って、見開き2ページ1テーマで計100テーマともう基本的方向が固まっており、それぞれの分野の代表的な資料で固めていくと割と簡単に入ってしまう量である。委嘱については少し動いてから考えてもいいし、この資料編の編さんにおいては、先ほどの新聞悉皆の検索が直接的には関係しないように感じた。
- 委嘱は今でなくてもよいが、分野の担当を決めておかないと進まないと思う。産業経済以外の分野をどう割り振るか、それが難しい場合は、新たな委員を入れられないといけないと思う。
- 私は社会でも教育でも文化でも何でも引き受ける。
- 私も社会関係、教育文化で項目を立てて書いていくことはありうるかと思う。この分野でどのようなテーマがあるのか出したうえで、執筆担当を決める方がありがたい。
- 近世の資料編では、各分野の担当者を作らず、お互い領域を越えてテーマを出していく方向で進めている。また、執筆者も若い人や地元の方に入ってもらいたいという意見もある。私も専門ではないが、社会や教育で少しでもできればと思っている。
- メンバーを見ると政治関係が多くて、教育と社会関係が抜けるので、担当を決めず進めていくとそこが抜けたままになることを懸念している。ある程度分野担当を決めて、その分野を中心的にテーマを探すことになれば、抜けずに全部並ぶので、その後セレクトしていけばいいと思う。全体の進め方としては担当を決めておいた方が抜けがないと思う。
- 委員の専門分野が偏っていることもあり、担当制にするということによいか。

- ・了解した。
- ・各分野2人ずつぐらいか。6人しかいないので、1人のところがあってもよいか。
- ・今後相互にテーマを確認するというのであれば、1人でもいけると思う。
- ・社会で大丈夫である。
- ・教育文化をみてる。
- ・政治行政を受ける。
- ・私は教育、社会の両方にサブということで参加させていただく。それでは資料編の4分野の担当として、政治行政が飯塚委員 産業経済が坂根委員と小野寺委員、教育文化が児玉副部長、社会関係が池田委員ということで、私が教育文化と社会関係をサポートするという形で進めていければと思う。資料編について今後また部会を開催するというのでよいか。
 - 事務局／担当委員を決めていただいたので、次はそれぞれテーマをまず上げていただき、メールでやり取りでできるレベルならそれで対応させていただいて、必要ならまた部会を開くということで柔軟に考えていきたい。
- ・資料編の編集責任者はどうなっていたか。
 - 事務局／資料編の編集責任者は副部長ということで、児玉副部長にお願いしたい。
- ・承知した。
- ・資料編に関しては、分野担当が決まったので、順次テーマを出して今後検討していきたいと思う。次に分野編の旧軍港は、現在坂根委員と小野寺委員がこのグループに入っているが、今後の委員等についてご意見をいただきたい。
- ・横須賀や呉のように800頁とか1000頁になるものと思っていたが、200頁なので、今のところは2人で対応できると思っている。大きな枠組みとして、小野寺さんに海軍工廠やデータベースを担当していただいて、私は鎮守府と鎮守府が出来たことによる社会経済的な変化のところをやるという形で相談している。これでしばらくやってみて、どうしても先ほどの周辺との関係で難しいということであれば、どなたかお願いするかもしれない。
- ・分野編の旧軍港と資料編との重複の問題について整理しておく必要があると思うが、基本的には旧軍港のことについては、分野編で扱うという考え方でよいか。
- ・近世の場合、城と城下町の基礎的なものは資料編に入れるということになっている。完全に分けるということも可能だと思うが、ご意見をいただきたい。
- ・資料編に旧軍港を入れると、100テーマのうち10テーマほど使ってしまう、他の分野を圧迫するので、分けた方がいいという感じがする。
- ・基本的には分けるということで、その中でも資料編に入れた方がいいというものがあれば、適宜に考えるということよいか。
- ・市民の皆さん方が資料編を手にとっていろいろ調べられるということであれば軍港が入っていた方がいいように思う。資料編を少し編さんしてみて、少々落としてもいいようなテーマがあれば、軍港を入れた方がいいような感じはする。
- ・東郷などトピック的なことで、これはという資料がある場合や、軍港編に入れにくいものがあれば資料編に入れることもあるかと思う。それは今後の展開次

第だと思う。

- ・今のところは一応分けることにしておいて、今後進める中で必要があれば、資料編の方にも軍港関係を入れるということにはどうか。
- ・軍港編の方が早く刊行する計画となっており、テーマも少し早く固められていくと思うので、それを参考にしながら資料編の方でも適宜考えていくということで進めていきたい。分野編の編集責任者を決めておきたい。
- ・私が引き受ける。
- ・それでは坂根委員にお願いします。
 - 事務局／テーマについて、事務局の方で様式を作り各委員に送らせていただくので、テーマを記入しお返しいただきたい。それを受けて次の展開を考えていきたいと思うのでよろしくをお願いしたい。

(4) 執筆者等の推薦について

- ・執筆者の推薦に関しては、先ほどの話の関係からいくと今のところないとは思いますが、資料編は各分野に及ぶのでテーマによってはその専門で適任の方がおられるかもしれない。
- ・例えばこのテーマについてのみこの方をお願いしたいという場合、別に執筆委員という委員があるのか。
 - 事務局／執筆だけいただく先生については、委員ではない。委員については市長が委嘱する形で手続きを取るが、執筆者は事務局の方で登録させていただく形である。

(5) その他①執筆要項について、②報酬等取扱基準について、③その他

[事務局より、資料3・新修・舞鶴市史執筆要項、資料4・舞鶴市史編さんに係る報酬等取扱基準について説明。]

- ・原稿について、InDesignで作成する場合に、何らかのフォーマットを提供いただけるのか。
 - 事務局／InDesignでの原稿作成については、まだ整理できていない。
- ・Wordで原稿作成する場合は、最初はフォーマットなどを考えず、使う資料と文章を考えていけばよいか。
 - 事務局／そう考えている。
- ・見開きの2ページ1テーマで、下3分の1ぐらいに資料の解説を載せるということで、資料の部分は、資料だけではなく、図とか表でもよいのか。
- ・それでよい。
- ・今後資料収集を進めていくことになるが、既刊市史の時に収集した資料の目録や家文書の目録などを共有していただきたい。
 - 事務局／市で保有している情報データについては共有させてもらおう。来年度予算の中でクラウドを活用した形で情報共有できるよう調整しており、各委員さんと情報共有できる形のものと考えていきたい。
- ・資料目録等を情報共有し、市史の編さんを支援できるようお願いします。
- ・編さん実施計画の中で、付帯事業として古文書や写真等の歴史資料をはじめとする歴史文化遺産の悉皆調査をすとなっているが、家文書などの整理は誰が行うのか。
 - 事務局／市民への呼びかけをして、未調査のものが少しずつ出てきているの

で、府立大学の東先生や郷土資料館で中心に動いている。ボランティアによる資料調査もその一環である。

- ・近代部会としてはどうするつもりなのか。
- ・悉皆に関する情報の確認を、今事務局でやっていただいて、そこから出てきたものを順次府大の方で資料整理している状況である。もちろんボランティアさんもかなりやっていただいているが、追いついていない状況ではある。文書には、近世も近代も入っているので一緒に整理している。それを資料目録という形で刊行していくよう進めているが、人材と予算に限りがあり順次対応していくしかないと考えている。
- ・京都府立大学としてかなり関与していくということか。
- ・府大も限界があるので、他の大学と一緒に整理していただければ効率がいいと思う。資料目録もうちが全部やるのではなく、他の大学でそれぞれ目録を刊行し、先ほどの新聞のリストなどもぜひ進めていただければと思う。
- ・府立大学が中心になってくれるということであれば大変心強い。
- ・府立大学では10年以上の舞鶴市の調査実績もあり、新聞検索も誰がやるのか気になっているところだが、このことも含めて協力していきたいと考えている。
- ・目録は、府立大学と舞鶴市どちらで刊行するのか。
- ・これまで府立大学で刊行したこともあったが、舞鶴市史として資料目録の予算を取られており、基本は舞鶴市で刊行していただくということで考えている。
- ・承知した。

5 今後の予定等

- ・今後の予定を教えてください。
 - 事務局／今後の予定としては、まずテーマを記入する様式を各委員さんに送らせていただくので、その後市の方で整理してまた協議をさせていただきたい。
 - メールでのやりとりか、他の案件も含めて部会形式をとるかについては検討させていただきたい。また、本日の会議議事録をまとめるので、一度各委員さんにご確認いただいた上で最終的にまとめたいと思う。
- ・今後各担当でテーマを挙げていくことになるが、どの程度の時間的な余裕で進めていけばよいのか、具体的に1年後なのかなど聞かせてほしい。
 - 事務局／近代部会については、来年度当初には持たせていただきたいと思う。各部会年度当初に進捗状況や当該年度の取組みの確認の意味も含めて、集まる機会を設けていきたいと思う。
- ・軍港編であれば、全体目次を来年度の当初ぐらいに出すというスケジュールになるのか。
 - 事務局／旧軍港グループについても、来年度当初に協議をお願いしたいと考えている。
- ・まだ具体的に目次を出すという話ではないということか。
 - 事務局／目次作成に向けた協議になると思う。
- ・資料編については、年度末ぐらいをめどに各委員が考えているテーマを挙げていくようなスケジュール感でよいか。
 - 事務局／年度内には構成を確定できればありがたいと思っている。旧軍港グループは、新年度に入ったら具体的なスケジュールを固めていきたいと考え

ている。

- 政治や経済産業に関してはある程度テーマとしても可能かと思うが、社会とか文化はかなり微妙なところがあり、あらかじめその資料がどういうものがあるのかわかった上でないと、細目のテーマなどに関しては決めづらいところがある。目録の共有はテーマ出しまでにはできるのか。
 - 事務局／ある程度特定していただくと情報提供できるが、来年度でないと全体の資料の共有はできない。
- 社会などは、資料からテーマが立ち上がってくるもの。あらかじめこちらで細目のテーマを決めてしまうと資料収集が偏ってしまう可能性もあり、資料の共有がないとテーマ出しも難航すると思う。
- 特に近代に関しては膨大な資料があり、これから新聞などを集めていく状況である。先に資料収集、調査を行い、これら資料を見ていかないとテーマ出しは無理だと思う。
- 例えば来年度の早い時期となれば、本当にざっくりとしたものしか出せない。資料編の政治行政では、旧軍港編でテーマを出してもらった上で考えることになると思うので、少し時間的余裕が欲しい。
- 資料を見たり、旧軍港編の進捗を見させていただいたりしながら、順次やっていくという形でないと無理だと思うので、その点は了解いただきたい。
 - 事務局／今後の進め方については部会長と相談させていただきながら、各委員さんの負担にならない形で考えていきたいと思うので、よろしく願いしたい。

以上